

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

森西正議員

4 全国学力・学習状況調査で正答率30%未満の子どもの割合0%について

【質問1回目】

○森西正議員 全国学力・学習状況調査で、正答率30%未満の子どもの割合ゼロ%について。

平成24年第3回定例会において質問をさせていただきましたけれども、第4次総合計画において、平成32年度の全国学力・学習状況調査で、正答率30%未満の子どもの割合目標値としてゼロ%としております。

現在まで学力向上に向けさまざまな対策を講じられていると思いますけれども、現時点での進捗状況をお聞きます。

【質問1回目への答弁】

○登阪次世代育成部長 全国学力調査の正答率についてのご質問にお答えいたします。

昨年度の大阪府学力学習状況調査での正答率30%未満の児童生徒の割合の状況は、大阪府の状況と大きな差はございませんでしたが、小学校の算数B、中学校の数学Bで約40%という状況でございました。これら主に活用力に関するB問題の正答率につきましては、大きな課題であると捉えております。

これまでも学力調査結果の分析を基にした授業改善等の研修や学習習慣の定着のための取り組みを学校と教育委員会がともに行ってまいりましたが、今年度からは、学校のPDCAサイクルの確立を図るため、各校は学校経営計画を策定し、校長等による教育委員へのプレゼンテーションを実施したところでございます。

各校の学力向上を中心とした重点目標や取り組みについて、教育委員会が正確に把握し、各校の課題等を情報共有することで効果的な支援を実施することができると考えております。

教育委員会といたしましては、本市の児童生徒の課題である長文の読解力や会話を説明

する表現力を育むため、活用力を伸ばす授業改善と活用力の定着を図る力試しプリントの実施等について、引き続き各校を支援してまいります。

教員の授業力の向上と、児童生徒の学びへの意欲の向上を図ることで、目標である正答率30%未満の児童生徒の割合ゼロ%を目指してまいりたいと考えております。

【質問2回目】

○森西正議員 全国学力・学習状況調査で、正答率30%未満の子どもの割合ゼロ%について、市全体でゼロ%の目標が達成できていなくても、目標成果の出ている学校や目標を達成した学校があるのか、お聞きしたいというふうに思います。

【質問2回目への答弁】

○登阪次世代育成部長 学力調査において、成果の出ている学校についてのご質問にお答えいたします。

学校ごとの平均正答率等の学力調査結果は公表しておりませんが、各校では学力調査結果を分析し、改善の方策について、学力向上プランに示しているところでございます。

市全体では正答率30%未満の児童生徒の割合の状況は、目標であるゼロ%に至っておりませんが、毎年少しずつ成長率30%未満の児童の割合を減らしていき、昨年度に初めて主に知識に関する問題の国語A、算数Aについては、ともにゼロ%となった学校もございます。

教育委員会では、このような成果のあらわれている学校の取り組みを他校へ広げ、全市的に共有していく一環として、ことし2月に開催した教育改革フォーラムでは「他校に学ぶ、自校に生かす」をテーマといたし、作文や辞書引きについての取り組み、グループ学習や補習学習などの取り組みについての実践

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

森西正議員

4 全国学力・学習状況調査で正答率30%未満の子どもの割合0%について

報告をいただきました。

今後も引き続き、各校の学力向上の取り組みを支援するとともに、成果のあらわれている取り組みを全市的に共有できるよう、効果的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。

【質問3回目】

○森西正議員 全国学力・学習状況調査で、正答率30%未満の子どもの割合ゼロ%についてですけれども、ゼロ%になった学校があるという答弁がありました。これは国語A、算数Aですけれども、ゼロ%になった学校の教職員には、これは本当に敬意を表したいというふうに思います。

ただ、まだまだ学校間で開きがあるようでございます。全ての児童生徒がゼロ%になると、自然と摂津市の平均点は大阪府や全国を上回るとはならないかというふうに思うんですけれども、私は、中学校時代、第二中学校で教育長から授業を受けました。箸尾谷先生の熱心な教え方、生徒と真っすぐ向き合う姿勢は身をもって承知いたしております。箸尾谷教育長のもと、摂津の教育はよくなると確信をしております。

正答率30%未満の子どもの割合ゼロ%にすることについて、この点、教育長に考えをお聞きしたいというふうに思います。

【質問3回目への答弁】

○箸尾谷教育長 まず最初に、森西議員を教えさせていただいたときは、私はまだ教師になって4年目で、まだまだ何もわからないときだったと思いますのに、そう言っていただきまして本当にありがとうございます。

森西議員の3回目のご質問にお答えしたいというふうに思います。

このような学力調査の結果分析には、教科ごとの全体平均正答率というのがよく利用さ

れておるといふふうに思いますが、市内の児童生徒の学力向上を考えるときには、本市のように学力低位層の子どもたちに焦点を当てた指標を目標として取り組むことは有効であるというふうに考えております。

特に、一人一人の子どもたちの将来を考える上においても、とても重要ではないかというふうに考えます。

各学校におきましては、これまでからも子どもたちの状況に合わせてさまざまな取り組みがなされておりますけれども、子どもたちの学習意欲や、あるいは学習習慣の違いなどにより学力の二極化が進んでおります。

こういった中で、正答率30%未満をゼロにするという数値目標は、その達成は決して容易なものではないというふうに感じております。

しかしながら、私はこの30%未満の子どもの数字の持つ意味は、最終学年のスタート時点におきまして、その調査において30%未満の正答率しか取ることのできない力しかつけられていないという、そういう子どもたち数をあらわしているんだという実態というか現実を改めて重く受けとめまして、学校が子どもたち一人一人が成長を実感できる場となりますように、全力を挙げて学校の取り組みを支援してまいりたいというふうに思っております。